

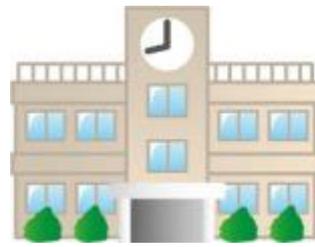


地域と密着した 教育活動の実践について

～創立2年目の取り組み～



北海道小樽未来創造高等学校



小樽商業高校

小樽工業高校

道内初の
〈単位制〉専門高校

小樽未来創造高校

地域産業が求める人材①



北海道発の「単位制」の専門高校が誕生

商業科

流通マネジメント科

情報会計マネジメント科

工業科

機械電気システム科

建設システム科



① 高校生が「地域活性化」の基点となる

② 商業科が「観光」の専門知識を習得する

③ 商業・工業の特徴を兼ね備えた取り組み

地域産業が求める人材②



観光に特化した人材確保が困難

- ① 外国語によるコミュニケーション
(中国語・韓国語・英語)
- ② 地元が育成した観光のスペシャリスト
- ③ 新しい・柔軟な発想を生み出す人材

地域産業が求める人材③



① 地元企業から求められる **即戦力**

② 生まれ育った街への **郷土愛**

③ 観光客に対する **ホスピタリティ**

④ イベントの **企画・運営力**

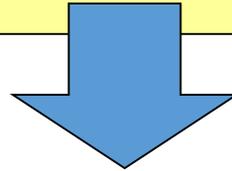
⑤ **地元貢献** できる資質能力

地域産業が求める人材④



基幹産業を「観光」が担うリスク

- ① **風評被害**などのリスクマネジメント
- ② **小樽市外の資本企業**が
観光業の大勢を占めている



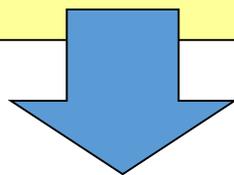
☆ **安定した基幹産業**の成立が急務
→ 将来的な「成長戦略」を担う人材

地域産業が求める人材⑤



高校生の段階から校外の活動に参加

- ① 生徒自身による社会活動の**経験**
- ② 多方面への**人脈**を形成
- ③ 企業と高校による**相互理解**



☆ 将来の「**オール小樽**」を担う
中心的人材育成の基盤へ発展

地域との活動①

～ OPENプロジェクト ～

地域の現状

小樽観光都市宣言 (H20)

観光への市民意識の向上・観光資源の発掘などの課題

- ① 市民一人一人が観光まちづくりの主役となる
- ② 人情味あふれる「小樽気質」でお客様をお迎えする
- ③ ふれあいを通じ感動と安らぎを感じていただく

ゆっくりと時間をかけて「小樽」を楽しんでいただく

多くの人に愛されるまち 「観光都市・小樽」を宣言

地域の課題

生徒が考えた「小樽の課題」

① 生まれ育った「小樽」のことをよく知らない

→ **歴史・文化・伝統** を学ぶ機会がない

② 観光客と一般市民の接点がない

→ **観光業の従事者** が「おもてなし」をしている

③ 日常生活で観光地に行くことが少ない

→ **小樽市民が訪れない** 場所になっている

問題点

「小樽観光都市宣言」の現状

・観光への市民意識の向上

・市民がまちづくりの主役

小樽市民の
意識改革

「小樽市民が小樽の価値を自覚していない」

市民への働きかけ

① 歴史的価値の再認識

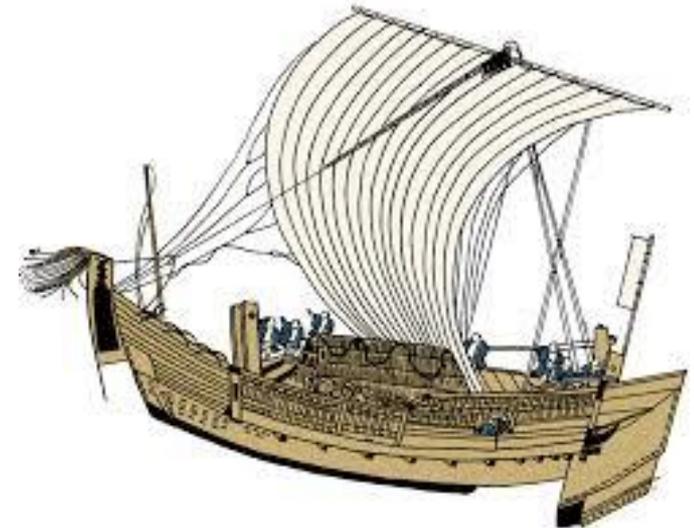
おたる案内人検定，日本遺産（北前船・炭鉄港）

② 地元イベントの成熟

潮ねりこみ，雪あかりの路

③ 問題点の認識，対策

人口減少，基幹産業の停滞



市民への働きかけ

① 歴史的価値の再認識

② 地元イベントの成熟

③ 問題点の認識，対策



郷土愛を育成

3年間の計画



1年目【H30】

2年目【R1】

3年目【R2】

お茶会の実施
外国人観光客(インバウンド)に向けた
アンケートの実施・分析

企画・運営
参加

しゃこ祭
新規事業の
提案

企画・運営
補助

参加・課題の整理

雪あかりの路
w e b ページ
作成

ガイドブック
作成協力

3年間の計画



1年目【H30】

2年目【R1】

3年目【R2】

おたる案内人検定
講習・取得

ガイドブック
PRビデオ
作成・配布

ホスピタリティ・マインドの醸成

- ① 現状と課題の整理
- ② 課題に対する改善策の検討
- ③ 観光の在り方について

学校外との連携



外部講師の活用



小樽・観光

ホスピタリティ
マインド

〔主な外部講師〕

小樽観光協会

小樽商工会議所

小樽医科大学

小樽市観光振興室 など

小樽の歴史
歴史的建造物
季節を彩る行事



連携先・みらい連携会議



〔 連携・協同先 〕

- 利尻屋みのや
- 小樽観光協会
- 小樽市漁業協同組合
- 小樽観光大学校
- 小樽市産業港湾部観光振興室
- 北海道小樽商業高等学校
- 北海道小樽高等支援学校

連携先・みらい連携会議



〔 地域みらい連携会議構成員 〕

(敬称略)

蓑谷 修

利尻屋みのや 前社長

井上 晃

小樽観光協会 理事

王 力勇

小樽商科大学 准教授

中村 寿春

小樽市産業港湾部観光振興室 主幹

新田 清文

後志総合振興局 地域産業担当部長

地域との活動②

～ 小樽学（総合的な学習）～

小樽学の目的

- ① 小樽の歴史と文化
- ② 食や観光
- ③ 外国語によるコミュニケーション
- ④ 国際理解
- ⑤ ものづくり など

→ 体験を通して幅広く学ぶ
希土的な知識を身に付ける

【 地域独自の経済と文化の理解を深める 】

- ⑥ アクティブラーニングの視点を持った
学習活動の体験・経験

【 グローバルな視野のもと
地域の視点から考え行動できる
人材を育成 】

【対象クラス】

1年次 4クラス 水曜6hに実施

【授業内容】

- ① 人文科学系分野
(国語科・地歴公民科・家庭科)
- ② 自然科学系分野
(理科)
- ③ 工業に関する分野
(電子機械・建設)
- ④ 商業に関する分野
(流通・情報会計)
- ⑤ まとめ
(レポート作成)

令和元年度 小樽学 年間計画

月	日		内容	備考
5	15	水	小樽歴史概論 【小樽学検討委員会】	体育館にて実施
	22	水	授業	
6	5	水	授業	
	19	水	まちづくり 【小樽学検討委員会】	HRおよび特別教室で実施 外部講師招聘
	26	水	授業	
7	10	水	うちわ作り&歴史 【商業科】	HRで実施
	17	水	潮ねりこみ 【商業科】	体育館にて実施 外部講師招聘
8	21	水	調理実習班編制 【地歴公民科・家庭科】	調理室にて実施
	28	水	ジャム作り 【小樽学検討委員会】	調理室にて実施
9	11	水	授業	
	18	水	ジャム作り 【小樽学検討委員会】	調理室にて実施
	25	水	ジャム作り 【小樽学検討委員会】	調理室にて実施
10	2	水	小樽まちめぐり 【建設科】	学校外学習 バス移動
	9	水	ジャム作り 【小樽学検討委員会】	調理室にて実施
	16	水	小樽まちめぐり 【建設科】	学校外学習 バス移動
	23	水	小樽の経済・歴史・ソウルフード 【地歴公民科・家庭科】	調理室にて実施 あんかけ焼きそば親衛隊
	30	水	小樽の経済・歴史・ソウルフード 【地歴公民科・家庭科】	調理室にて実施 あんかけ焼きそば親衛隊

月	日		内容	備考
11	6	水		
	13	水	小樽の経済・歴史・ソウルフード 【地歴公民科・家庭科】	調理室にて実施 あんかけ焼きそば親衛隊
	20	木	食と小樽 【小樽学検討委員会】	体育館にて実施 外部講師招聘
12	27	水	後志からみた小樽 【小樽学検討委員会】	体育館にて実施 外部講師招聘
	4	水	小樽の経済・歴史・ソウルフード 【地歴公民科・家庭科】	調理室にて実施 あんかけ焼きそば親衛隊
	11	水	後志の発電所 【機械電気】	体育館にて実施 外部講師招聘
1	18	水	北海道の鉄道史 【機械電気】	体育館にて実施 外部講師招聘
	22	水	おもてなし 【小樽学検討委員会】	体育館にて実施 外部講師招聘
2	29	水	雪あかりの路（概要とデザイン） 【商業科】	HRで実施
	5	水	雪あかりの路（キャンドル制作） 【商業科】	HRで実施
	12	水	雪あかりの路（飾り付け） 【商業科】	校舎正門
3	19	水	雪あかりの路（飾り付け） 【商業科】	校舎正門
	11	水	炭鉄港のまち小樽 【小樽学検討委員会】	体育館にて実施 外部講師招聘
	18	水	小樽学のまとめ 【小樽学検討委員会】	HRで実施
		水		

活動状況の報告

1年目 平成30年度

11月

しゃこ祭

【しゃこ祭実行委員会】

① プレ祭り（11月7日）

• 塗り絵の掲示



11月

しゃこ祭

【しゃこ祭実行委員会】

① プレ祭り（11月7日）

・しゃこの生態展示



11月 しゃこ祭

【しゃこ祭実行委員会】

① プレ祭り（11月7日）

- しゃこ煎餅の作成，販売
- 缶バッチの製作，配布



11月 しゃこ祭

【しゃこ祭実行委員会】

② 本祭り（11月10,11日）

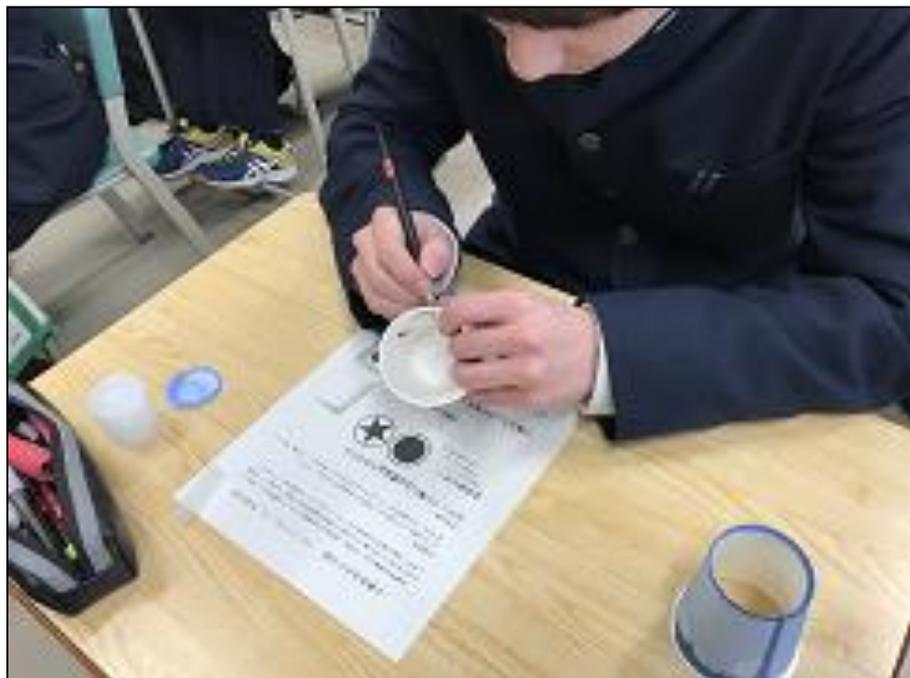
- 塗り絵の掲示
- しゃこ煎餅の作成，販売
- 缶バッチの製作，配布



2月 雪あかりの路

【雪あかりの路実行委員会】
(2月14,15日)

- 紙コップローソクの製作



2月 雪あかりの路

【雪あかりの路実行委員会】
(2月14,15日)

- 学校正門前の飾りつけ



2月 雪あかりの路

【雪あかりの路実行委員会】
(2月14,15日)

- プロジェクションマッピング (仮)



活動状況の報告

2年目 平成31年度
(令和元年度)

6月 お茶会

【利尻屋みのや】
(6月25,26日)

- 英語科との連携
- 小樽高等支援学校との連携
(異校種連携)



6月 お茶会

【利尻屋みのや】
(6月25,26日)

- 外国人観光客への案内
- お茶の説明



- 日本文化の紹介，体験



生徒の感想

- ① 緊張したが、コミュニケーションを思った以上にとることができた
- ② 言葉が通じなくても身振り・手ぶりの工夫で、お互いに話し合えた
- ③ 観光客は日本語を勉強して来ている私も外国語を勉強して旅行に行きたい

7月 潮ねりこみ

【潮まつり実行委員会】
(7月27日)

- ねりこみ（踊り）の練習
- 山車の製作
建設科との協力体制



7月 潮ねりこみ

【潮まつり実行委員会】
(7月27日)

- ねりこみ (踊り) の参加





Otaru
Mirai
Souzou

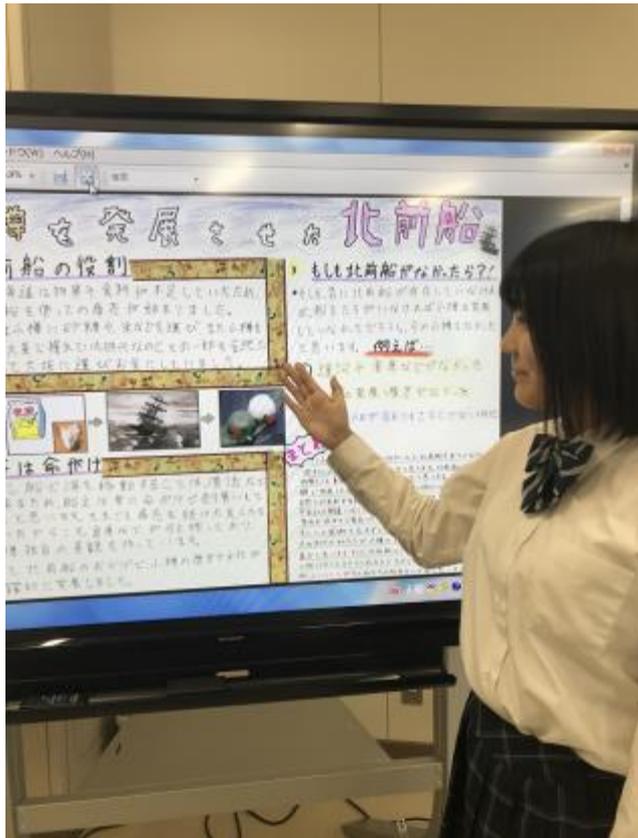
10月 北前船



寄港地フォーラム

- 日本遺産の学習
- 壁新聞の作成，発表

(10月19日)





Otaru
Mirai
Souzou

10月 北前船



寄港地フォーラム

- テーマ別の討議
- フォーラム発表 (計画)

(10月19日)





Otaru
Mirai
Souzou

1 1 月 B-1 G P 広報活動



【小樽あんかけ焼きそば親衛隊】

- 小樽紹介リーフレットの製作

2 月 小樽雪あかりの路

- 観光客へのリーフレット配布
- webページの作成



3 月 おたる案内人検定

【おたる観光大学校】

- 2年次「観光一般」で受験指導



活動計画の立案

3年目 令和2年度

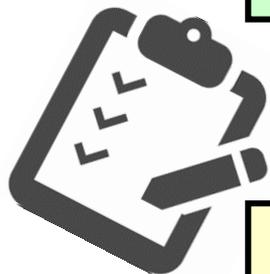
(外国人)観光客への アンケート調査



ホスピタリティの習得
イベントの企画・運営

観光客へアンケート実施

地域観光の活性化



民間企業・観光協会
小樽行政への提言



課題の発見
解決策の考察, 提案



地域経済分析システム
「RESAS」の活用

観光客のニーズ
正確に把握

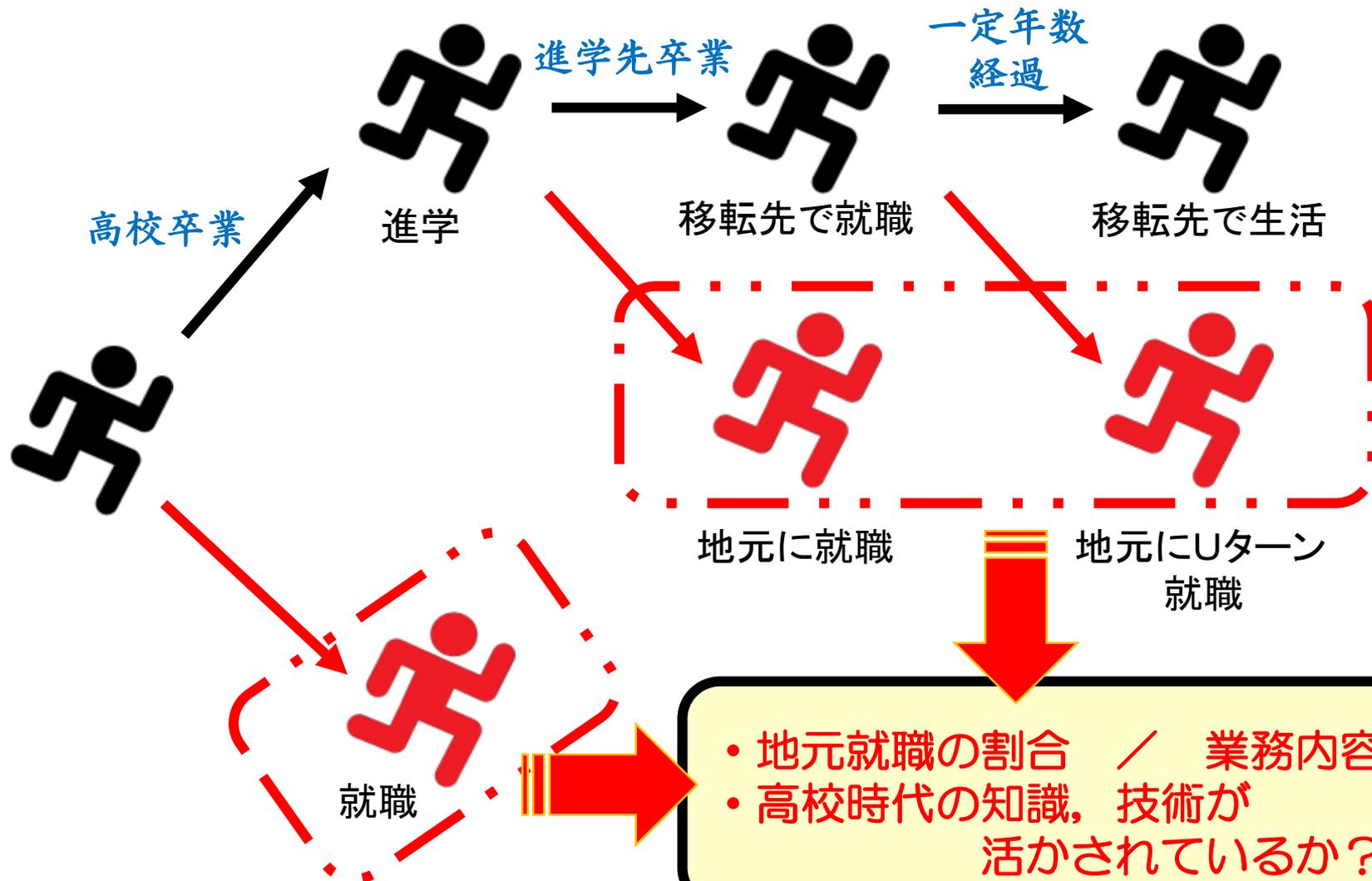
アンケートの実施



地元企業への 卒業後の追跡調査



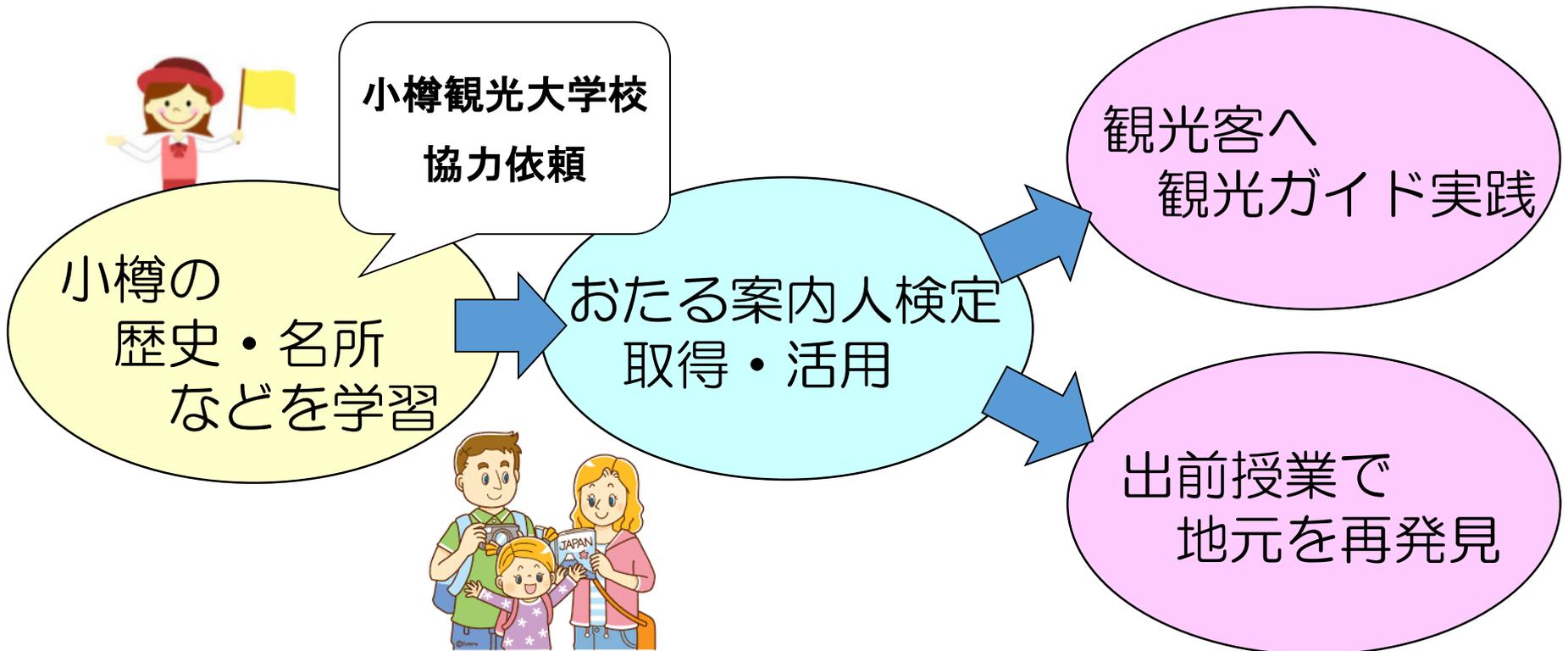
Otaru
Mirai
Souzou



小樽の魅力を 発見・認識・伝達



- ☆ おたる案内人検定の受検・活用
- 来訪観光客「観光ガイド」
 - 小・中学校「出前授業」



地元地域への 活動報告

外国人観光客へおもてなし！

北海道小樽未来創造高等学校(最上)1年生と、北海道小樽高等支庁学校(鉄面)2年生が協力して、外国人観光客を対象に、日本文化を楽しくてもらうと、6月25日(火)・26日(水)10:00～15:00、堺町通りにある利尻屋の立小樽歴史館でお茶会を開いている。

この取り組みは、2007(平成19)年から、小樽を訪れる外国人観光客に日本の文化に触れてもらおうと始められた。複数回実施した年もあり、今年で16回目となった。

地元の教育機関と連携して、校外で教育活動発表を積極的に実施。外国人観光客に日本文化に親しんでもらい、寛ぎの場を提供するおもてなしを行い、地域に貢献することが目的としている。

未来創造高校流通マネジメント科1年生40名は、お茶会を知らせる係やアンケートをとる係・通行人をカウントする係に分かれ、それぞれの持ち場で堺町通りに観光に訪れた外国人観光客に英語で話しかけ、学んできたことを現場で体験した。



お茶会会場を訪れた観光客に、英語で日本文化を説明し、第4回で「さくらさくら」と「梵鐘の月」を演奏。茶運びによるお点前が披露され、淹れたての茶とまんじゅうを振舞った。

高等支庁学校生活技術科2年生は、紙やガラスなどの素材を使った製品の製造等の授業で、牛乳パックを再利用して紙を漉いて徳紙200枚を作った。茶会の和菓子や載せる徳紙に使ってもらおうと協力した。

26日に同生徒6名と教員らが会場を訪れ、代表の生徒は、「牛乳パックをリサイクルして、お茶会に向けて一生懸命に作った。自分達が作った徳紙が使われるところを見られると楽しみにして来た」と挨拶して、未来創造高校の生徒に手渡した。

ちょうどその頃、会場には、イギリスから11日間自転車と共に来道した61歳の男女6名が、華やかな音色に耳を凝らし、茶を味わい、けん玉に夢中になるなど、日本文化を楽しんでいた。

午前中の同通りには、外国人観光客が少ないこともあり、思うように実施することができない場面もあったが、勉強した通り英語で語りかけ、アンケートに協力してもらい、お茶会会場に招いたり緊張しながらも笑顔で対応していた。

女生徒の1人は、「話かけたが、言葉が通じないので説明するのが難しい」と話し、他の女生徒も「初めてなので、緊張する」と話し、勇気を出して話しかけていた。

初日の25日は、同校資格会計マネジメント科40名が参加して、外国人観光客80名が茶会を楽しんだ。本日は120人を見込んでいる。



ねりこみの山車完成！未来創造高生

北海道小樽未来創造高等学校(最上)1・伊藤良平校長)建設科の生徒2名と担当教諭は、潮まつりに参加する備前を基やかにする山車を、手づくりして完成させ、7月28日(火)にお披露目した。

日頃からものづくりに携わる同科に山車の依頼があり、課題研究の時間を活用して、同科3年の竹井祐人さんと宮下剛輝さんが、担当の押切吉紀教諭の指導の下、5月のGW後から、運びやすいように組み立て式の山車制作に取り組んだ。

アイデアを出し合い、意見をまとめるまでも時間がかかったが、高さ1≒82cm・横1≒40cmと1≒82cmの厚付きの組み立て式の山車を制作。

祭りらしさを出すために、色の違う提灯を飾り、昨年の文化祭でうちわ絵に使用した商業科の1年生が描いた天狗の絵を側面に使い、反対側の面に未来創造高校の文字と校章を描いた。



トラックの荷台に載せ、7月27日(土)に実施の潮まつりのねりこみに、山車として、同校部団「小樽未来ひろげ隊」200名とともに町を練り歩く。

竹井さんは、「90点の出来。残りの10点は、来年、後輩がこの山車を受け継ぎ、さらに手を加え、100点にしていきたい」と話し、宮下さんは「提灯に電気を点けたり、電気・建設・機械・商業など、すべての学科が山車に関わることで、この学校の強さが出てくる」と期待した。

この山車は、後輩が引き継ぎ、年々バージョンアップさせ、卒業後も山車を見ることが、祭りの楽しみになるそうだ。

押切教諭は、「この形になる前に、案が色々出たが、2人の考えがまとまった。そこで、部品も少なくい方法で、簡単に組み立てができるよう完成させた。なにより楽しそうに制作していた」と話した。



本番が近づき、研究成果をまとめる潮見台中文化部の部員たち



潮見台中生 コメ運んだ歴史注目 未来創造高生 観光資源 活用法探る

北前船 中高生が研究

小樽市立潮見台中と道立小樽未来創造高の生徒が19日、ウイングベイ小樽（小樽市築港）で開かれる第28回北前船寄港地フォーラム（小樽市など主催）で、それぞれ北前船について調べた内容を発表する。生徒たちは「来場者の印象に残るようなスピーチをしたい」と張り切り、晴れ舞台への準備を進めている。（前野貴大、日野夏美）

潮見台中は文化部の1、3年生計9人が「中学生が見た、知った、考えた北前船」と題し、校区や周辺に今も残る北前船の影響について発表する。

船主の名前を見つけた。その後も「北前船で来た人」と物」に注目。小樽で餅づくりや酒造が盛んだった背景に、北前船で本州のコメが運ばれてきた歴史があると分かった。2年の宮川莉緒さんは「点と点がつながっていくのが楽しかった」という。

本番が近づき、9人はほぼ毎日集まって原稿の見直しやスピーチの練習に力を入れる。2年の笠原颯太さ

19日 小樽のフォーラムで発表

んは「地元の中学生だからこそ発見できたことを伝えたい」と意気込む。

樽未来創造高は情報会計マネジメント科2年の松田優衣さん、後藤陽和さん、竹川怜さんが発表する。同校では8月中旬から、

地域活性化に向けて小樽のイベントに助言する授業の一環で生徒約25人が北前船の歴史や文化を学び、4、5人の班ごとに壁新聞を製作。その後も各自が詳しく調べた内容をまとめた。フォーラムでは松田さんら3人が壁新聞を紹介するほか、ゆるキャラや関連商品の開発など北前船を観光資源として活用するアイデアを提案する予定だ。

3人は現在、放課後に毎日1、2時間ほど集まって提案内容を話し合い、発表で使うスライドの制作に励む。リーダーの松田さんは「小樽の人口減を緩和できるような北前船の活用法を提案したい」と話す。

中高生の発表は19日午後1時45分から15分ずつの予定。一般の来場は受け付けを終了し入場できない。同日には専門家らの基調講演や研究発表もある。同フォーラムは20日に右狩市でも開かれる。両市は昨年、日本遺産「北前船寄港地・船主集落」に認定された。

フォーラムに向けて提案内容を話し合う小樽未来創造高の生徒ら





◆「あんかけ焼そば」高校生に伝授 あんかけ焼きそばで地域活性化を目指す市民団体「小樽あんかけ焼そば親衛隊」は10月30日、小樽未来創造高で生徒に作

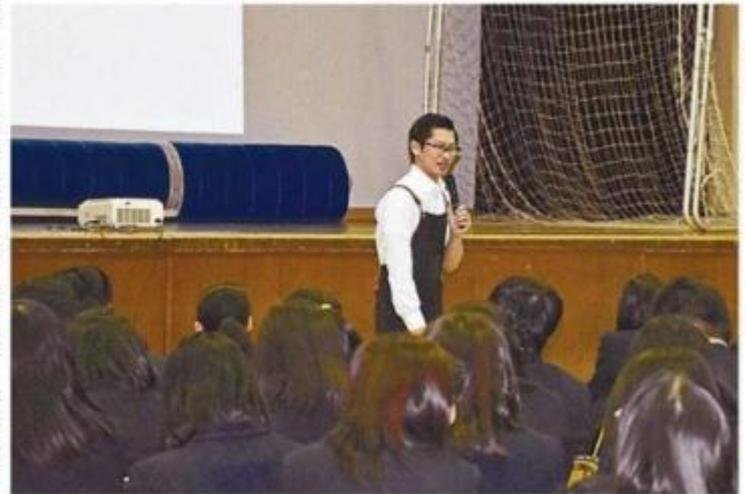
り方を伝えた。

親衛隊が高校生に作り方を教えたのは初めて。坂田理隊長ら4人が講師を務め、情報会計マネジメント科の1年生38人が参加した。

生徒は8班に分かれ調理を開始。白菜、もやし、豚肉などを手際よく炒めた。親衛隊から「塊を作らないよう片栗粉を少しずつ加え、ほどよく混ぜて」と助言を受け、約1時間で完成。写真。村上颯涼さんは「教わったレシピをもとに家でも作りたい」と話した。

後輩へ「全てが自分の糧」

未来創造高 カフェバー店主 中源さん講演



「経験が人を成長させる」と語る中源さん

昨年3月に閉校した旧小樽工業高の卒業生で、カフェバー「石と鉄」(色内2)店主の中源博幸さん(34)が20日、母校の統合先の小樽未来創造高で講演し、高校生に経験を語った。

小樽の歴史や文化を学ぶ授業の一環で、1年生160人が参加した。

中源さんは2004年に小樽工業高を卒業し、東京の飲食業やシンガポールの日本食レストランで勤務。

「小樽の良さを提供できる店をつくりたい」と今年、3階建ての石蔵を改装し「石と鉄」を開業した。

高校時代に培った技術で店の階段を修理しているというエピソードも紹介し「今は必要性を感じない勉

強でも、全てが自分の糧になる」と生徒にエールを送った。

流通マネジメント科1年の阿部光佑さんは「現在学んでいるマーケティングの授業も、将来につながると信じて頑張りたい」と話した。(日野夏美)

'19 小樽雪あかりの路

小樽市内はメイン会場、準メイン会場以外にも40カ所に「あかり 客の案内にも備える。 同好会の富沢耀部長は「公式

初参加・小樽未来創造高

グッズの値段や商品説明を英語表記したポップもつくりました。外国人観光客に小樽を好きになってもらえるように頑張ります」と意気込んだ。

前身の伝統受け継ぐ

の路会場」が設けられ、市民の飾り付けたろうそくの光が街を優しく包む。小樽商業高と小樽工業高の2校が統合して昨年4月に開校した小樽未来創造高は14、15の両日、正門付近を「あかりの路会場」にする。小樽商業高として長年参加しており、同校は「樽商高の伝統を受け継ぎ、未来創造高として新たに発展させられれば」と期待している。

1年生153人は郷土を学ぶ「小樽学」が必修。その一環でスノーキャンドルづくりなどの会場設営を行う。雪の壁に観光PR動画などを映すプロジェクションマッピングにも挑戦するという。榎谷美妃さん(16)と横井百華さん(16)は「雪あかりの路に参加するのは初めて。とても楽しみです」と声をそろえた。

また、同校ボランティア同好会を中心とした有志は小樽雪あかりの路実行委の道案内ボランティアとしても参加予定。英語表記のある観光マップを携え、外国人観光



初めて「あかりの路会場」として参加する小樽未来創造高校の1年生

小樽の未来創りへ討議

未来創造高でラジオ録音



小樽の魅力などを語り合ったパネルディスカッション

小樽未来創造高（伊藤良平校長）で18日、FMおたるの公開録音を兼ねたパネルディスカッションが行われた。「小樽を語る、未来を語る」をテーマに、生徒がミス小樽など校外のゲストと一緒に参加。小樽の魅力やマチおこしのアイデア

などを語り合った。

未来創造高では本年度、1年生が地域の文化や歴史を学ぶ「小樽学」の授業を続けてきた。パネルディスカッションもその一環で、4人のゲストと4人の1年生が登壇し、FMおたる総合プロデューサーの村岡啓

介さんの司会で討議した。

市民活動グループ代表の渋谷靖さんは、マチの活性化について「自分がやりたいうことをやれば、それがマチのためにもなる」と主張。ミス小樽の村上千草さんは「街中にレトロな建物があり、タイムスリップしたような感覚になれる。インスタ映えするスポットも多い」と小樽の魅力を語った。

生徒、パネリストの雪田悠生さんは「住民には交通面などで住みづらい面もある」と課題も指摘。松田優衣さんは「SNS（会員制交流サイト）を活用して小樽の情報を世界の人たちに届け、活性化したい」と意見を述べた。

討議の様子は3月2日午後8時から、FMおたるで放送される。

（森川潔）

今後の課題 1

Plan

教育内容の
計画・準備

Action

教育内容の
改善

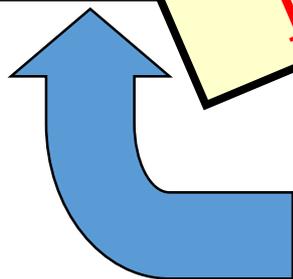
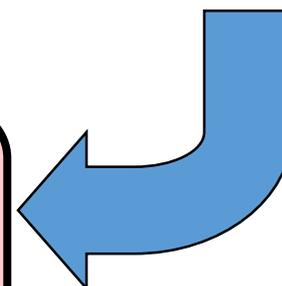
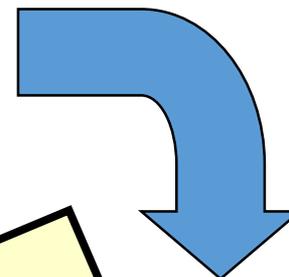
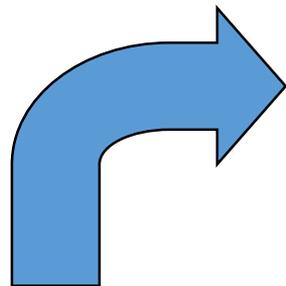
Do

授業の実施

Check

追跡調査による
見直し

PDCAサイクルの確立





Otaru
Mirai
Souzou

今後の課題 2

小樽に関する
歴史・文化
などを学習

Hop

興味・関心を
育成

Step

生徒が主体的・
自発的な活動へ

Jump

イベントに参加するだけでなく
自発的に継続できる活動体制を確立



ご清聴

ありがとうございます

ございました